

令和4年度 第2回文化財保護審議会 会議録

開催期日	令和5年2月1日（水） 午前10時00分～				
開催場所	本庁舎東別館第1会議室				
出席状況	委員7名中6名 事務局6名				
傍聴人状況	0名				
主な議題	(1) 令和4年度事業の中間報告について				
	(2) その他				
席次番号	委員氏名	摘要	席次番号	委員氏名	摘要
1	大山 宏尚	㊤・欠	7	白石 匡子	㊤・欠
2	鈴木 重臣	出・㊤			
3	鈴木 勉	㊤・欠			
4	滝澤 隆	㊤・欠			
5	千代田 光雄	㊤・欠			
6	堀内 仁之	㊤・欠			
事務局	梅澤 十三男	生涯学習部長			
事務局	羽ヶ崎 紀子	生涯学習部副部長兼青少年課長			
事務局	大村 和男	生涯学習課長			
事務局	犬塚 真由子	生涯学習係長兼郷土資料館長			
事務局	石橋 まり	生涯学習課主事			
事務局	大東 加奈	生涯学習課主事			

会 議 名		令和4年度 第2回文化財保護審議会
議 事	事務局	1. 開会(司会進行:大東主事)
		2. 会長あいさつ
		3. 教育長あいさつ
		4. 議事 (1) 令和4年度事業の中間報告について ○資料1 令和4年度事業の中間報告について ○資料2 市制施行50周年記念特別展 「ふるさと三郷、みんなで歩んだ50年～昔と今とこれからと～」
	委員	【質疑応答】 文化財めぐりについて、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、バスを使わずに市ホームページでの公開としていると思うが、他自治体では現地集合・現地解散で行っている例もある。三郷市は電車が二路線通っており、交通の便も良いため、そういった形での開催も検討してほしい。
	委員	資料の受入れについて、行政文書の受入れを行っていると思うが、昨年度はどれほど保存されたか。
	事務局	文書箱4箱分の資料を保存している。
	委員	以前は市役所全体で400箱ほど廃棄文書があり、そのうち40箱ほど保存していたと思う。4箱はかなり少ない数であるため、選定基準含め廃棄資料の保存業務の見直しをしてほしい。
	委員	令和3年7月、白岡市と秩父市が文化財保存活用地域計画を作成し、認定された。千葉の東葛地域でも作成が進められている。三郷市では、文化財保存活用地域計画についてどのような見通しを立てているのか。
	事務局	埼玉県東部地区文化財担当者会等で、他自治体の動向を見ながら、検討していきたい。
	委員	現在、松伏町の編さん事業に携わっている。松伏町の平成の出来事をまとめていくなかで、防災無線が聞き取れない地域があるから防災ラジオを全戸に配布したが、その経緯に関する内部資料が何も残っていなかった。 残っているのは、広報紙と規定のみだった。新型コロナウイルスに関することなど、今行っていることは将来は貴重な歴史資料となるのが気付いた時には何も資料がないという状況になる。 今行っていることの中から、何が重要かを考えながら後世に残していくことが大切だと思う。
	委員	郷土資料館の展示について、50周年記念として写真を市民の方から集めたと思うが、その写真についての今後の活用を考えてほしい。 特別展の展示は良かったが、もう少し見やすい工夫を凝らしてほしい。 郷土資料館と彦成小学校講堂記念館の2つの館があるから、郷土資料館は三郷の歴史に関すること、彦成小学校講堂記念館は学校や習俗に関することというような住み分けも検討してほしい。 また、彦成小学校講堂記念館などで、堀内委員に解説をお願いし、見学会を開くなどすると市民の関心を高められると思う。
	委員	文化財サポーターについて、以前に比べると減ってきている。文化財保存活用地域計画を行うとなると大規模な調査が必要となる。文化財に関心のある市民の方を増やせるよう、活動を周知してほしい。
	委員	郷土資料館の展示は以前に比べて見やすくなった。今後も継続してほしい。
	委員	埋蔵文化財包蔵地該当による試掘調査が増えているが、どういった理由による開発が行われているのか。

会議名	令和4年度 第2回文化財保護審議会
事務局	8月に行われた番匠免での工事立会は、駐車場のアスファルト敷きなおしによるもの、11月に行われた戸ヶ崎での試掘は、建売住居を建設するための造成工事が予定されていたため試掘調査を実施した。
委員	彦成小学校講堂記念館は市指定文化財になっているが、修理が必要となった時に単年度予算では間に合わないと思うので、積立のような形で修理費の確保をしてほしいと思う。 彦成小学校講堂記念館の管理は誰が行っているのか伺いたい。
事務局	彦成小学校講堂記念館は生涯学習課で管理している。
委員	八木郷小学校旧木造校舎玄関遺構が市指定文化財になった場合の管理についてはよく検討してほしい。
委員	文化財保護に関して行っていることを知らない市民の方が多いと思う。周知を工夫して、市民の方が興味・関心を持ち、参加できるようにすれば文化財保護の活動の幅が広がっていくのではないかと思う。
委員	新型コロナウイルス感染症の影響で文化財を公開していないところもあると思う。新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、文化財所有者に対して、文化財の公開に協力が得られるようにして欲しい。
	(2) その他 ○資料3 令和4年度 みさと古文書講座について ○三郷市指定文化財保存事業費補助金の一部見直しについて 【質疑応答】なし
	○現地視察 八木郷小学校旧木造校舎玄関遺構 資料4 八木郷小学校旧木造校舎玄関遺構修繕後写真 堀内委員作成資料 解体前の校舎全景写真と解説 現地にて堀内委員より説明
	【説明概要】 解体時の写真と現物を見比べてみると、八木郷小学校旧木造校舎は現在よりも江戸川沿いにあった。旧木造校舎を立て壊す際に、有志で玄関を移築保存することとなった。 旧木造校舎の写真と比較すると、現在の建物の柱脚部に覆いを造っている。柱脚部の覆いを取り、もとはどのような形をしていたのか確認するのも必要だと思う。 一般的に日本の建物は梁を通してあるが、この建物の場合は貫を通してある。吹寄柱を作るのは、ギリシャ建築のパルテノン神殿などに代表される近世ヨーロッパの建築物と類似している。柱を寄せて真ん中を扉にするというのが近世ヨーロッパの建物の伝統である。 日本に洋風建築が入ってきて木造で造られた建物を「擬洋風建築」と呼ぶ。柱については、正方形柱では四隅に「面」を取る。普通はまっすぐ斜めに切る「大面」ものが多いがここでは直角に掘り込んでおり、上下で欠き取りを収斂させている手法はこの建築の特徴である。 また、柱の上部に貫が挿入されているが、貫が貫通しているように見せている装飾板が、上の方がやや厚く造られ少しテーパ状となっている。細かな心遣いを感じる点である。 妻側について、建物の正面に当たる青い部分については壁体とは関係なしに表面に貼り付けてある装飾材である。 細い骨組みのように見える部材はトラス組のようにも見えるが装飾である。青い部分の色は元々どのような色であったかはわからない。木材に油性の塗料を塗布するのは非常に難しい。約5～6年ごとに塗り直さない限り元の色は分からなくなる。 教室棟と比較すると、屋根はラフに造られている。外側に樋がなく、内樋式となっている。この旧校舎の特徴の一つである内樋にすると排水が難しく軒先は厳しい気象条件だったと推測される。棟飾り(資料4-写真6参照)に

会 議 名	令和4年度 第2回文化財保護審議会
	<p>については、元の形を模倣して作成したものだと思うが、将来文化財的な修繕を行う際には、元の棟飾りを精巧な形で作ってもらえたらと思う。</p> <p>こういった形式の玄関を持った建物は周辺地域（草加、八潮等）にもあったが多くの鉄筋コンクリート校舎に建て替えられてしまい古い写真でしか残されていない。幸いこの地域の方々の熱意により建物の一部であっても残された。これから先大事に保存し継承して行ってほしい。</p> <p>活用については、野外給食や地域を考える授業などに使うなど有効な方法があると思う。</p> <p>県内では、大宮などに旧師範学校や県立高等学校で建物が残っているけれども、小学校で残っていること自体が貴重な例であると考えている。</p>
	【質疑等】
委員	指定文化財にすることは考えているのか。
事務局	まだその段階には至っていない。まずは、審議会委員の皆さまの意見等をはじめ様々な意見を聴取し、研究を重ねていきたいと考えている。
委員	指定云々とは関係なく、どのような建物かわかるようにプレートなどを立てたらどうか。昔の写真と簡単な説明を付けるだけでもいいと思う。
委員	設計図は残っていないのか。
堀内委員	<p>聞き取った限りでは残っていないとのことである。草加小学校の建物は、建築士制度ができてきた時期の建物で、設計者と施工者が別々だったようだが、八木郷小学校旧校舎については、一括の請負で大工が作ったのではないかとと思われる。妻側の破風軒先の装飾部分で見られる頬杖を作る方法は、彦成小学校講堂記念館の工法と類似している。もしかすると同じ大工が作ったのではないかと思う。その大工の方の家に伺ったが、昔のことはわからないとのことだった。</p>
委員	玄関部分と校舎部分を施工した時期は同じ時期か。色が若干異なるか。
堀内委員	<p>同じ時期だと思う。内樋式を用いているため排水の問題があったと思う。雨漏りなど起こっていたことが推測されるため、何回も屋根を修繕したのではないかと思う。</p>
	5. 閉会（千代田副会長）
	以上